

指先おしやれ 高齢者元気に

ネイル(爪)で高齢者を元気にしようと、岸和田市のシニアメンタルビューティー協会は、福祉ネイルリストの育成に力を注いでいる。いくつになってもきれいでいたいという女性に指先のおしやれを提案。美容を通じて福祉活動の輪を広げ、日本中が笑顔であふれることを願っている。(綾木めぐみ)

■他県に拡大

同協会はネイルで心の健康促進を図ろうと昨年9月に発足した。きっかけは約3年前に同協会の理事長で、約10年間ネイルリストとして活躍している荒木ゆかりさん(53)が、デイスリーブスの利用者にあった出張ネイル。来月も来てね」と楽しみにする高齢者や施設が増えたことを実感し、スクールを立ち上げて本格的に福祉ネイルリストの育成を始めた。20～60代と幅広く、子育て

福祉ネイルリストは、施設

に出向いて高齢者にネイル

アートなどを施す。カリキ

ユラムは全7回の計21時間

で、通学期間は最短で約2

カ月。初心者でも受講でき

る。講義では福祉の現状を

はじめ、爪の構造からマッ

サージュの方法、ペイントア

ートなどを学ぶ。練習を積

み重ねて実地研修を終える

と認定書を受け取る。

スクールの卒業生は3月

16日現在で9人。年齢層は

20～60代と幅広く、子育て

福祉ネイルリスト育成に力

岸和田・シニアメンタルビューティー協会

中の母親やヘルパー経験者などさまざまな人が受講している。活動の幅を広げるために認定校も募集している。すでに和歌山県や広島県などに計6校ある。

■かっこいい

同協会は、デイスリーブスや障害者自立支援事業所など5カ所出張ネイルを展開。昨秋に同スクールを卒業した吹田市の土橋麻子さん(31)は、「ものすごく喜ばれるので、やりがいがある。卒業後も協会と情報共有できるので安心。一緒に行動の仲間を増やしたい」と意気込む。

メニューはハンドマッサージや10本の指にマニキュアを塗るコースがあるが、荒木理事長は「高齢者ならではの注意点多い」と話す。血液をさらさらにする薬を服用している人は、止血しづらいことから甘皮を取るときに用いるニッパーは使用せず、ガーゼを使うという。

ネイルの効果は、徐々に表れ始めている。高齢者の中には指輪やネックレスを着けたり、スカートをはくなどおしゃれをするケースが目立ち始めた。70代女性には「コンビニの若い店員からかっこいいと言われた。この歳で褒められることはないのに」と喜び、80代女性には「最初は抵抗があったけど、今はネイルをしないと恥ずかしい」と話す。荒木理事長は「夢は東京五輪パラリンピックの選手村で、ネイルをすること」と世界的な広がりを目指している。

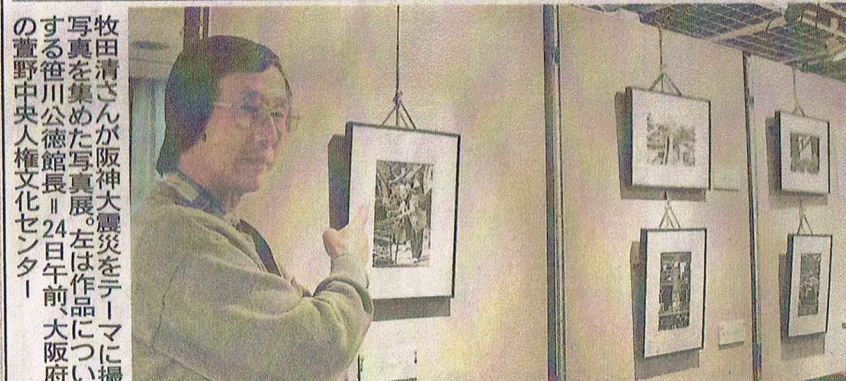
「有望株」の288点

市立美術館で

関西に在住する画壇の有望株が筆を走らせた。画家が白た洋画展「関西独立展」想で描いた大が24日、大阪市天王寺

在日コリ

阪神大



牧田清さんが阪神大震災をテーマに撮写真を集めた写真展。左は作品についてる笹川公徳館長。24日午前、大阪府の菅野中央人権文化センター